



金沢大学がん進展制御研究所：腫瘍制御セミナー

膵外分泌機能を反映する血漿apolipoprotein A2 2量体C末端切断異常を指標とした膵がん検診法の臨床開発

本田一文

国立がん研究センター研究所早期診断バイオマーカー開発部門
AMED CREST

2018年11月9日（金） 17時～18時
金沢大学がん進展制御研究所 4階会議室

われわれは、早期膵がんやそのリスク疾患を検出する血液バイオマーカーの開発を進めています。HDLの一種であるapolipoprotein A2 (apoA2) は血液中ではホモダイマーとして存在し、アイソフォームを形成します (apoA2-isoforms: apoA2-i)。膵がんやそのリスク疾患であるIPMNなどでは膵外分泌機能変化を反映して、C末端アミノ酸の異常切断を受けることを発見し、末梢血液中のapoA2-isの濃度変化が膵がんやリスク疾患診断の指標になることを言及してきています。

最近われわれはApoA2-iの濃度変化を測定するためのELISAキットの開発に成功しました。同キットの膵がんに対する判別性能がCA19-9を凌駕することを、米国がん研究所早期診断研究ネットワーク (NCI EDRN) とともに示しました。また、欧州の大規模コホート研究と連携し、膵がん診断前検体を利用して診断学的有用性をドイツがん研究センター (DKFZ) や世界保健機関国際がん研究機関 (WHO IARC) とともに検証しています。

さらに「血液バイオマーカーを用いた効率的な膵がん検診の実用化」を目指して、apoA2-iを用いた実験的膵がん検診に着手しました。膵がんバイオマーカーの実用化のみならず、早期診断バイオマーカーの臨床開発加速化や国際共同研究による体外診断薬のデバイスラグ解消を目的に臨床性能試験実施に利用できる支援プラットフォーム事業（早期診断バイオマーカー検証プラットフォーム：P-EBED）も立ち上げました。

問い合わせ：がん進展制御研究所腫瘍制御
源 利成 (076-265-2792)

